

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第50回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る
— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《思想・文学分野》

「井筒俊彦」の世界観 言語と宗教を超えて」

講師：東京大学先端科学技術研究センター准教授 池内 恵先生

【講演要旨】 井筒俊彦は日本のイスラーム教研究の先駆者・第一人者として長く知られてきた。井筒はどのようにしてイスラーム教に出会ったのだろうか。そしてイスラーム教研究を経て、さらにどのような地平に進んでいったのだろうか。井筒は言語学者であり、宗教哲学者である。イスラーム教のみならず、東洋と西洋の大きく異なる諸宗教を、「言語」という観点から比較し、その奥深くにある共通性を探り続けた。また、言語を介した存在の認識そのものを超える、本質直観の道を模索し続けた。この講義では、多岐にわたる井筒の著作の中から、一貫していた一つのテーマを読み解いていく。井筒の生育環境に遡り、幼少期に体得した、言語を超えた超越的な直観の獲得を、その原体験としてとらえる。長じてのちの井筒は、この言語を超越した直観の体験を、言語を通じて論理化するというさらに困難な課題に取り組んでいった。井筒は数多くの宗教や哲学体系を遍歴するが、イスラーム教は超越的な神の言葉の現世の人間への「啓示」という観念において、井筒を惹きつけて止まなかった。宗教間の対立や摩擦が目立つ現代だが、井筒が深く分け入った諸宗教の言語の根底にある共通の地平は、対立を超える手がかりを与えるかもしれない。

【講師紹介】 1973年東京生まれ。1996年東京大学文学部イスラム学科卒業、2001年に東京大学大学院総合文化研究科博士課程を単位取得退学し、アジア経済研究所に入所。国際日本文化研究センター一助教授・准教授を経て、2008年10月より東京大学先端科学技術研究センター准教授。ケンブリッジ大学客員研究員（2010年）、ウッドロー・ウィルソン国際学術センター客員研究員（2009年）、アレクサンドリア大学客員教授（2008年）等を歴任した。専攻はイスラーム政治思想史、中東地域研究。2016年に第12回中曽根康弘賞を受賞。著書に『現代アラブの社会思想——終末論とイスラーム主義』（講談社現代新書、2002年、第2回大佛次郎論壇賞）、『書物の運命』（文藝春秋、2006年、第5回毎日書評賞）、『イスラーム国の衝撃』（文春新書、2015年、第69回毎日出版文化賞・特別賞受賞・2015年）など。『増補新版 イスラーム世界の論じ方』（中央公論新社、2016年）に井筒俊彦論が二編収録されている。

日時：2017年8月8日(火)18:00～20:30
会場：公益財団法人国際高等研究所
参加費：2,000円(交流・懇談会費用を含む)
定員：40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)
申込：裏面のURLからお申込みください
詳細：<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>
締切：2017年8月3日(木)

公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

